

# いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

## 1. 地球環境を守る脱原発

### 【地球環境のための祈り】

「天地万物を創造された主よ。あなたは、すべてのものを造られ、それらをご覧になり『よし』とされ、祝福されました。そして、その管理を私たち人間にゆだねられました。しかし、東京電力福島第一原子力発電所による災害が示すように、わたしたちはあなたのご命令にそむき、自らの欲望を満たすために自然環境を乱用し、破壊さえしています。今、そのことの故に世界中の多くの人々が苦しんでいます。どうかわたしたちがあなたのご命令に立ち帰り、あなたによって与えられた自然環境を大切に保全し、後（のち）の世代のために残すことができますように。また、原子力発電所による災害など、環境破壊の被害者の苦しみを取り除き、わたしたちの生活を変え、自然と共に生きることが出来ますように。そして、自然を通じてあなたが現わされるご栄光を仰ぎ見ることが出来るようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン」

## 2. なぜ脱原発なのか

安全と言われてきた原子力発電所ですが、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所1～4号機の爆発事故は、その原因が地震とそれによる巨大津波の襲来であったにしろ、その規模や影響は途方もなく大きなものでありました。あれから7年経ったいまでも、高濃度の放射能が降り注いだ地域から避難した人々が、今でも7万人以上、困難な生活を余儀なくされています。そして、除染によって生じた大量の放射性廃棄物は、フレコンバックに詰められたまま、行き場のない状態が続いています。更に、事故を起こした原発は、あまりにも放射能濃度が高く、原形が破壊されていることもあり、溶融した核燃料の取り出しが出来ず、廃炉の見通しすら立っていません。

このようなすさまじい事故の情報は、日本より海外各国に強い衝撃を与え

ました。その結果、多くの国が、エネルギー政策の見直しや自然エネルギーへの転換を図りつつあるのです。

その最大の要因は、放射能による汚染だけでなく、地球規模の気候変動への影響の増大です。

- ① **地球温暖化** 年によっては冷夏と言われる年もありますが、長期的には、地球の平均気温は確実に上昇しており、80年後には最大6℃上昇する可能性があります。それにより、海面上昇（<1.8m）、異常気象、作物収穫量の減少や旱魃など、私たちの生活や生命の安全が脅かされます。対策としては、それをもたらす温室効果ガス（主体はCO<sub>2</sub>）の減少が必要です。化石燃料によるエネルギーから、枯渇する心配のない自然エネルギーへの転換が効果的です。
- ② **大気汚染** 世界には毎年300万人が大気汚染によって命を落としていると言われます。化石燃料は空気を汚染し、その空気を吸う事で健康に悪影響が生じるのです。
- ③ **エネルギー資源確保** 化石燃料は地球の埋蔵資源であり有限です。この有限な資源への依存は、国の経済基盤としては不安があるため、各国が、枯渇する事のないクリーンなエネルギー資源を求めています。

既に取り上げましたが、世界のエネルギー政策は、自然エネルギーへのシフトが確実に進んでおり、特に、太陽光発電や風力発電へと切り替えています。太陽光発電は日中の発電が主となりますが、風力発電は風が吹いていれば時間は関係ありません。そして、発電容量は小さくても、初期投資が少なく、電力消費地に近接して設置する事で送電ロスを少なくすることが出来ます。



こうした特徴を生かし、中国は今や太陽光発電大国となっているのです。

日本国内においても、再生可能エネルギーの固定価格買取制度により太陽光発電の採用実績が増加しつつあり、事業者向けの電力単価は低下の一途をたどっています（右図参照北海道新聞2月8日朝刊より）。

原発のない世界は決して夢物語ではなく、すぐそこまで来ています。私たちの知恵と勇気がそれを実現するのです。